一宮市立市民病院における救急救命士の必要性と役割

　現在、当院救命救急センターでは、医師と看護師による運営を行っているが、市民にとって十分な救急医療の提供できる体制が整っているかが大きな課題です。

　近年、院内外で救急救命士の重要性が注目されています。救急車での患者搬送時のファーストタッチは言うまでもなく、今年度の診療報酬改定では、患者転院については、医師や看護師だけでなく救命士も可能になったことが挙げられます。

病院内での救急救命士の具体的な役割

■救急対応

緊急事態（心停止、呼吸困難、意識喪失など）が発生時に、迅速な心肺蘇生や気道確保などの応急処置を行う。

■患者監視

患者の状況を定期的にモニタリングし、病状の変化や異常を早期に発見。患者のバイタルサイン（血圧、脈拍、呼吸数、体温など）の測定や記録を行い、必要に応じて医師や看護師に報告する。

■医療機器の操作

患者の治療やケアに貢献するため、医療機器や装置（輸液ポンプ、心電図モニター、酸素供給装置など）の操作をする。

■チーム連携

チーム医療では、医師や看護師、その他の医療スタッフとの密接な連携が重要であり、救急救命士もチームの一員として患者のケアを行います。必要に応じて、患者の状況や処置内容を適切に報告し、情報を共有しより良い医療につなげます。

救急救命士が行なえる代表的な医療行為

■心肺蘇生（CPR）

心停止や呼吸停止などの緊急事態に、患者の心臓と呼吸を再開させるため、心臓マッサージと人工呼吸を交互に行う。

■除細動器の操作

心室細動や心室頻拍による心停止の場合に、AEDを使用して除細動を行う。

■気道確保や酸素療法

意識喪失や気道閉塞による呼吸困難などの緊急事態に、呼吸をサポートするため軌道を確保する。（気道確保の手法には、頸部挙上法や気道留置管の挿入などがあります）
また、呼吸器疾患や低酸素血症などの場合に、酸素共有補助のために酸素療法を行う。

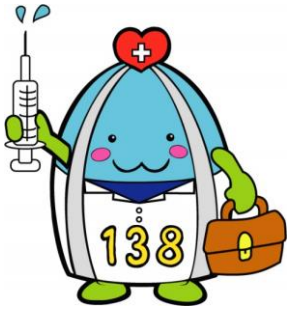
■止血処置

大量出血や重度の外傷に対して、圧迫止血や包帯巻きなどの手法で止血処置を行う。

■輸液や点滴

血液の循環不全や脱水症状などの場合に、静脈に輸液や点滴を行い、患者の体液バランスを調整する。

救急救命士に求められるスキルを身につけて頂くためのカリキュラムを作成し、スキルアップや院外での活動に役立てていくための教育も行います。



具体例として、

手術室での挿管・点滴確保、

各種術式に応じた対応の仕方、

カテ室・放射線部門での画像診断から救急で活かせる知識の習得、

集中治療室での救急患者への対応など、

実践に活かせる知識を習得していただけると思います